

生きとし生けるものへの一考察

第五回生 山本 淨月

(臨濟宗太寧寺住職)

時々、私は思う事がある。世の有様を見るに世界はもう変つてゆく時代であろうと。そして人の生き方のさまざまを考える。現在、この世に生きている人間はこの限られた地球の中に同じ時代に生まれ合せたと云う偶然の御縁である。そしてこの世に生を受けて人はそれぞれに生きてゆく苦しみ、喜び、悩み等々いろいろと体験していざれその生涯を終る。多くはただか百年に満たない生涯である。人は生まれて死にゆく事、それは絶対に平等である。不老長寿を求めて権力、財力を以つてしても基本的にかなわぬ哀れな存在と云えよう。日本、アメリカ、アジア、ヨーロッパ、折にふれてめぐつて人々の生活を共にする体験を、多少なりともすると私はいつも感じる。人々は皆生きてゆくと云う事である。生活習慣はその土地、風土、生産物、それぞれの違いによつて異なることは必然である。根本的には、

①人は誰もその出生について親を選んで生れる事はできない。要するに生まれる環境を又

場所を選んでくる事は出来ない。

② 生まれる国を選んでくる事はできない。

③ 人種を選んで生まれてくる事はできない。

④ 男女の別さえ選んでくる事はできない。

ただ限られた地球と云う星の中に同じ時代に生まれ合わせたと云う事である。将来宇宙開発によって他の星に移住と云ったとしても、とても近未来に移住と云うわけにはいかないであろう。たとえば特別に訓練された何人かが、膨大な費用を使って実験的に研究をしているのを見ているだけで我々はこの世を終るだけであろう。誰とも選ぶ事の出来ないその出生を深く省みる事や意識する人はあまりみる事はない。長い歴史の中で、人は国を作り武器を作り国境を作り力を持つ者は手下を集め、国取り合戦を世界中のあちこちで行い、何世紀もの間様々の時代を通り、近世から近代に至って資本家と産業化された企業体のもとに働く階級化された労働者の群、現代では正社員や非正規社員、失業その他等、世界中の問題となって大なり小なり人の生活、政治にもかかわる一大事の様だ。個人の生活もその影響は無縁にはならなくなる。

人間が利害を優先する考えは長い歴史の中にあつて生活を守る人生の智恵かもしれないが、根本的には不平等なハンデの中でこの世に立ちむかうための生き様であろう。

二千五百年前の釈迦族の王子に生まれたと云う釈尊の時代も、世に生きる事は苦と云われた。「一切皆空」と。その苦に満ちた人の世を生きるための心の持ち方を求めて出家の方法をとり苦行林に入り六年間、結局結論を得られずガヤの町のほとりに出て来て、ニレンゼン河で沐浴し衰弱した体を流されずに、通りかかった村娘スジャータによつて助けられ、乳しぼりの彼女の乳がゆの供養によつて生気をとり戻し、近くの菩提樹の元に七日間の深い瞑想の後、八日目の夜明けの明星をみて徹底大悟を得、悟を得た者即ち仏陀となり、悟りを開いた町即ちブダガヤとよばれる様になり、色々な学者達の挑戦にもゆるがぬ眞理のために、大ぜいの学者とその弟子もろとも仏陀の弟子となつたと云う。それ故仏道はのちに自然に形成されたものと云う。スジャータの助けなくば仏陀は生ぜず又、仏道もなかつたかも知れない。

仏道が二千五百年以上も存在するのは宇宙の眞理を釈尊が悟つて下さつたからと云える。宇宙の眞理と云うものは要するに一つしかないと云える。恐らく世界の三大宗教、佛教、キリスト教、イスラム教と別れているが、宇宙の眞理は一つしかあり得ない故、天上に行けば同じ眞理をといているわけと云える。遠い昔、各地は現代の様に地球一周は一日でも飛行機でも行ける時代ではなく、遠い地域にそれぞれの風土や生産物、たべもの等々、異なるものによつて生活習慣が出来、密接なかわりを持つ事もむづかしく地域毎に発展していかがるを得ない。地

域毎の「応病与薬」の美であろう。たとえ表現は異って見えても一つの真理に要約する事も出来るはずである。大昔に現代の様に地球せましと行動する世界であれば各地の宗教をサミットで集まり、万人共通の教えに整えられたかもしれない。

余談だが釈尊の残された言葉を当時の直弟子達が結集して、その記憶を確認しあつた事により『法句経』が残されている。後年スリランカで文字による記録がされたと云う。直接釈尊からさく事の出来た弟子達が残してくれたのである。故に「如是我聞」と記されている。約二千年五百年前から六回の結集がされ最後の六回目は第二次世界大戦中に（二十世紀）ビルマにおいてなされたと云う。南方仏教に於いては現在も『法句経』は大事な聖典でありタイでは『タンマボット』と云つて大抵の人が知っている。日本では大正の終り頃、友松圓諦師が『仏陀の言葉』として邦訳、のち『真理の詞華集』を出しているが日本に於ては小乗仏教の様に扱われてあまり重んじられなかつた様だ。

紙面が足りなくなつたので中途半端な文章になった。要するに同じ地球と云う世界に生まれ合わせた人々までは、それぞれの異なる気候風土の生活様式や習慣が異なつても、人種や国が異なつても、人間として生きる権利は同じである。海辺に生れた人、砂漠に生きる人、森に生きる人、山国に生きる人、暑い国、寒い国、それぞれの環境によつて相異があるのは自然である。

そしてその根本には親や環境も国も人種も男女の別も誰も選んで生まれては来れなかつた事があるのだ。過去には植民地主義によつて他民族を支配し生活、教育も差別された事により、その結果の世界の混乱でもある。有形無形の混乱を正しく整える事は、三世代四世代の時間を要する。約一〇〇年位かかるかも知れない。過去のアフリカの西洋人の国、南アでは黒人は住むところも決められ、その国に住む白人は世界で一番豊かな生活と云われ、テレビ局はなかつた。黒人がTVで世間を知るのは困るからだ。マンデラ氏の投獄約30年が勝ちぬく迄は。―インドも一九四七年の独立後、イギリスから解放されて約三世代の後教育が平等になり、現在IT産業へのその頭脳を世界の先進国が争つて買っている状態である。